

第1回検討委員会の意見一覧

番号	意見(要約)
1	<p>●記録を集めても活用されていない課題がある【01佐藤(翔)】 ・構築したデジタルアーカイブがあるが、利用があまり活発ではない。また一般利用者の参画がない。つくったらよいけれどという状況にあることは事実。</p>
2	<p>●アーカイブについて、何を記録し、何を残すべきかという改めての議論が必要【02佐藤(泰)】 ・3がつ11にちをわすれないためにセンターにおいて、市民の力で活動する場の創出・支援・活用については行い、できることはできた。ただ仙台市やメディアテークで記録してほしいということは言っていない。記録されたものの活用も課題ではあるが、何を記録し残すべきかということの議論を、仙台市として改めて整理する必要がある。</p>
3	<p>●アーカイブ機能は、すでに進んでいるプロジェクトと調整しながら、重複しないように【03野家】</p>
4	<p>●被災現場、施設、人がセットであることが効果的【04遠藤】 ・復興支援の団体、NPO・NGOの皆さんと一緒に活動している。そのような皆さんが、メモリアル施設をどう使っているかという、先輩の被災地に行き、現場を見て、施設を見て学んでいる。そこでは施設の展示だけではなく、被災された方や支援された方のリアルなお話を伺ってはじめて腑に落ちる。施設と人がセットというのが効果的。</p>
5	<p>●アーカイブの質と量を検討する必要がある【05遠藤】 ・発災後のフェーズごとに必要なことは違う。プロセスも様々ある。それを全てをアーカイブをしようとするとかかなりの情報量になる。そういったことがアーカイブされていることはあまりないと思うので、どこまで力を入れるべきか悩ましい。個人的には力を入れてほしいという気持ちもあるが、アーカイブの質と量を検討する必要がある。</p>
6	<p>●求められる機能によっては施設規模・立地に影響する。現在市内で検討中の施設等との関係性も含めて検討すべき【06遠藤】 ・今までの議論の中で、メモリアルのアーカイブ機能、防災の機能、教育の機能が話題になっている。求められる機能は施設規模にも影響し、立地にも影響する。そういった点で、仙台市内で検討が進んでいる音楽ホールや市役所新市庁舎、県民会館との関係性も含めて検討すべき。</p>
7	<p>●戦災復興記念館を教訓にして考えてはどうか【07遠藤】 ・過去の先例としてある戦災復興記念館を教訓にして考えてはどうか。</p>
8	<p>●他の被災地から見て、仙台の拠点に何を求めるのか聞いてみるとよいのでは【08遠藤】 ・(東日本大震災の)被災地のほかの施設の皆さんが、仙台の拠点の施設に何を期待したいのか聞いてみると良いのではないかと。</p>
9	<p>●過去を記録するだけでなく現在とのつながりをもたせることが必要【09遠藤】 ・過去の記録だけだと動きが少なかったり、現代性とのつながりが弱い。現代とのつながりの工夫ということもソフト・ハード面で考えていく必要がある。</p>
10	<p>●建物だけではなく、人の育成や研究など、市民にアクションを起こしてもらえる仕組みを考えていく場が必要【10石垣】 ・元々のメモリアルに込める想いで「仙台市民一人ひとりが、東日本大震災の記憶と経験を未来へ」というところで、地元の人が記憶を、教訓をどういうふうに受け継いでいけるかという、建物だけの話ではなく、人の育成、プログラムなりなんなりを作っていく研究機関というのか、研究、取り組みをしていく、市民にアクションを起こしてもらえるような仕組みを考えていく場が必要。</p>
11	<p>●震災を中心に捉えながらも、震災にとどまらず様々な部門をつなぐハブに【11石垣】 ・東日本大震災の教訓をみたいなのをずっと何十年も言い続けて振り向いてくれるのかは疑問。震災は中心にあると思うが、縦割りではなく様々な部署を連携してつなぐような意味での拠点、ハブが必要なのではないかと。</p>
12	<p>●災害を乗り越える準備も常に移り変わる。作って終わりではなく、常に更新し続けられるものが求められる【12植田】 ・アーカイブを全部そろえてパッケージにしたら完了ではなく、災害を乗り越えられる準備をするということも常に移り変わっていく。生ものとして、常に更新し続けられるようなものである必要がある。</p>

番号	意見(要約)
13	<p>●被災の状況に応じ、時間が経ってからも語れるように、市民に開かれていることが必要【13植田】</p> <p>・市民に開かれていて、今は語れないけど、時間が経ってからやっぱり語りたいという方も、辛い経験をされた方は、風化というよりもむしろなかなかまだ振り返れないという方もいらっしゃる。祈る方の祈念のような拠点というか、まだ箱かどうかは分からないが、そういう風な場所を作っていけたら良い。</p>
14	<p>●犠牲を無駄にしないために何をすべきか考え取り組むべき【14大泉】</p> <p>・そもそもメモリアル拠点というのをなぜ作らなくちゃいけないのかと考えた時、これだけ多くの方が犠牲になったという犠牲の重さと、暮らし奪われた、幸せが奪われたということを伝えなければ、犠牲が無駄になるという罪深さや、同じ犠牲が繰り返されるのではないかという不安がある。犠牲を無駄にしないために、私たちが何をすべきかということが、こういった施設に問われる。今後の議論の中で、建物なのか、何を見せ、何を語るのかというのは吟味していかなければならない。</p>
15	<p>●災害の悲惨さを伝えて終わるのではなく、個人の実践につなげる工夫が必要【15大泉】</p> <p>・他の災害の施設を見て、起きたことを見聞きするとうわっと思いつつも、家に帰りそれを忘れるのではなく、うわっと思ったことで、「では今日から何をする」というふうに個別具体的な実践にまで落とし込めることが必要。</p>
16	<p>●仙台ならではの機能も追及すべき【16大泉】</p> <p>・仙台は東北のゲートウェイとしての機能も持とうと(報告書のなかでは)謳われている。他のところがやっていないことを後追的というよりは、仙台だからできるという仙台ならではの機能も追及していきたい。</p>
17	<p>●震災だけの視点ではなく、時代的役割、街のグランドデザインの中での役割を踏まえた検討が必要【17大泉】</p> <p>・市役所の建替えも含めて、街のグランドデザインの中でこういったものが副次的にでもどういった機能を持つのがいいのか。少子高齢化などという時代の中で賑わい創出のために、この施設がどんなことを担えるのか、施設そのものが新設がいいのか、どこかの施設に抱き合わせだったり、またはどこか今のところに入るのがいいのかも含めて、時代的役割というか、そういうのも踏まえるべき。震災だけに特化すると独りよがりな施設になりそうな気もするので、複眼的な見方も必要。</p>
18	<p>●距離の遠さを理由に沿岸部施設に行かない市民に対して訴求できる可能性があるが、人が来てくれない可能性もある。【18-1佐藤(翔)】</p> <p>●現場の持つ力にはかなわない。震災を学ぶには現場とセットであることが大事【18-2佐藤(翔)】</p> <p>・沿岸部施設のアンケート結果から、行かない理由をみると、大きく分けて「震災のことにアクセスしたくない」という気持ちの問題。もう一つは「遠いから」という物理的な問題が多かった。</p> <p>中心部に機能があるということは、遠いからという人たちに対するレスポンスにはなる。</p> <p>・一方、中越メモリアル回廊の事例をみると、長岡市(中心市街地にある拠点)が(仙台市でいう)中心部としての位置付けを担っているが、その長岡の施設の人の入りが良くない。震災を勉強するということは、現場とセットであるということが大事。他の3つはまさに現場に直面している。現場が持っている魅力に負けてしまい、中心部に人が来ない。(人を現場に)パスはしているんですけども、そこにはお客さんが来てくれないというジレンマがある。</p>
19	<p>●子どもから大人まで防災教育の機能もあった方がよい【19佐藤(翔)】</p> <p>・中越で一番来館者数が多いのが、防災学習を専攻する小千谷のそなえ館。防災教育といったときに、地域の小中学生対象であること、修学旅行生対象であるということで、外向きでもあり内向きでもあるという理想的な機能を持っている。中心部かつそういった機能もあった方がよい。仙台市には防災の部局でSBL(仙台市地域防災リーダー)の取組等もあるので、そういった機能があると子どもから大人まで補完できるのではないか。</p>
20	<p>●人と防災未来センターの事例を鑑みると、中心部は市外から求心力を持つ一方、地元の人が客体化する危険性をはらむ【20佐藤(翔)】</p> <p>・「人と防災未来センター」について、全員が全員ではないが、神戸市民の皆さんが客体化している部分がある。私のものではないと。世界のもの、よその人のものという感じになっていることは、少なからず多からずあると思う。中心部となると求心力もあるが、地元の人々の求心力を奪う可能性もある。</p>
21	<p>●東北の中での中心的な役割。長いスパンでの取組が必要。アーカイブ1つとっても、その体力をもってやれるのが仙台であるという心構え【21佐藤(泰)】</p> <p>・仙台は被災地全体の中で中心的な場所にあり、人口が一番多く、都市の機能も集約されている。東日本大震災の中での中心的な役割が何らかの形で求められる。</p> <p>・ただ、被害自体は大きな被害を受けた他の地域とは違うところもある。そういう意味での中心ではないが、これだけ大きな災害を受けて、復興に向けて様々な活動を続ける中で、それに立ち向かっていく一番大きなパワーを有する可能性がある場所であるということを前提に検討していきたい。</p> <p>・例えば記録を考えるにしても、100年後とか、200年後とか、500年後とか、そのぐらいの長いスパンで考えて、それをじっくり育てていく、そのためには体力が必要。アーカイブは専門的な知識も必要だし、継続していくための人手もものすごく必要。それだけの体力をもってやれるのが仙台なんだということも我々の心構えとして持っていきたい。</p>

番号	意見(要約)
22	<p>●まずは誰が何をするかを考えた上で、最終的に必要な施設があるとすれば何なのかという順番で議論を進めるべき【22佐藤(泰)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設はもちろん考える必要があるかもしれないが、その前にどういったことを誰がどういう風にやるのか。何をすべきなのか、我々に求められていることが何かということ、まず何よりも大切に考える。 そのためにどれだけの人手や時間が掛かるのか見積もり、そこで最終的に必要な施設があるとすれば、それは何なのかという風に議論が進んでいけば良い。
23	<p>●これから起こり得る災害、想定外があること、それにどう向き合っていくか考えることも重要な視点【23佐藤(泰)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回の災害で想定外があるということを我々は学習したけれども、だとすれば必要なのは、そこであったことをひたすら伝え続けることだけではなくて、これから起き得るそれ以外のこと、想定外のこと、つまり東日本大震災で経験した以外のことが幾らでも起き得ることを伝えることではないか。我々の社会にはそういったリスクがあるのだということを前提として考えたい。それにどう向き合っ、その中でどれだけ被害を小さくできるのかということを考えるということもすごく重要な視点。
24	<p>●悲惨な体験を乗り越えるためには忘却が必要だった【24-1志賀】 ●被災のレベルが個人であまりにも違う状況がある【24-2志賀】 ●自分自身は抽象度を上げて震災を乗り越えてきた【24-3志賀】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3月11日が実際どうだったかということを思い出していたが、目の前でたくさんの方が水の中にいて死んでいるという状態があった。個人、毎日のレベルで言うと、忘却、忘れるっていうことを体全身で行ったということが今の私を支えている。 忘却というのが一体何なのかということは、すごくあるが、その前に、被災のレベルが個人であまりにも違うということ、この何年かで突きつけられた。 自分の中では抽象度を上げて震災に対して考えていくということで、自分自身がそれ(震災)を乗り越えていくことをしていた。
25	<p>●モニュメントなどは、価値観を変えられた破壊や人の死などから発せられた沢山の物語が背景にあり、人々に愛されるものであるべき【25志賀】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1つの物語にはまとめられないというはあるが、真っ暗な夜に全てのものが水の中にあるという、フラットになってしまった世界というものを今私がどう考えているかという、やはりその前がどうだったのかということ、その後何が起こっていったのかという、その1日を起点にした前後と言える。 震災時の出来事が、その後復興に関するあらゆる資本の動き等で、いろいろな価値があらゆる現場でものすごい勢いで帯びたことにも、複雑な思いになったこともあった。 そして、震災後7年の時間では、あの時亡くなってしまった人の「死」の意味が、あの頃とは変わったように思う。 人が住んでいるところが全く破壊されてしまったという、破壊には意味があったのではないかと今は思う。というのは、何かを見たりして価値観が変わるようなことというのは、傷つくことでもあるから。 モニュメントって「ええ？」と思うが、それがどんなものか分からないが、住んでいる人、地域の人に愛されるものであってほしい。一本の木なのか、何かの立体物なのか分からない。では、どうすれば愛されるのかと考えると、やはり1つの物語にはできないが、破壊や死から生まれた生々しい沢山の物語が背後にあるべきなのかと思う。 愛されるために、何かを作るのは違うと思うが、「物語」がこの地域に住む各々の個人に繋がることがもできたりしたら、と切実に思う。
26	<p>●人の死によって気づかされたことを無駄にせず、今の現実をもっとよく見たり向き合うための場であるべき。そうでなければ、未来に対しても過去に対してもアクティブではない【26志賀】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人の死によって気づかされたことがすごくたくさんある。もし文化芸術などに関する何かがこの会議から立ち上がることがあれば、今の現実をもっと良くみたり、向き合うための施設でなければならぬ。そうでなければ、未来に対してアクティブではないし、過去に対してもアクティブではない。これまでのいろいろな震災や戦争、今後あるであろうことに対してアクティブでなければならぬ。
27	<p>●伝えるためには場所、人、物の3つを揃える必要があり、仙台市全体としてその機能をどう備えるか【27-1マリ】 ●既存施設を活用する可能性もある。特にメディアテークの役割が大きい【27-2マリ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 場所、人、物の3つを揃えて伝えてないといけない。仙台市全体の事を考えると、その3つの機能をどういう風に揃えることができるのかということが大事。 新しい施設ではなく、あるもので上手くつなぐこともできる。メディアテークの役割がとても大きい。3がつ11にちをわすれないためにセンターも全市レベルではないが、ある意味で人・物・場所をうまく連携できる。
28	<p>●防災を勉強できる施設はあった方がよい【28マリ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人と防災未来センターの話が出ましたが、強みと弱みの両方の側面があると思います。強みとしては、勉強できる場であること。防災を勉強をできる施設が仙台市にもあった方が良いんじゃないかと思う。

番号	意見(要約)
29	<p>●仙台にまず来て、次の場所に行けるようにすることが大事な役割【29-1マリ】</p> <p>●施設同士をつなげると同時に、地域につなげる、地元・東北の文化も大事に【29-2マリ】</p> <p>・日本人でも外国人でも同じかもしれないが、海外からの視点で考えると、海外からの人へどういうふうの説明するか、ゲートウェイとしてとりあえず仙台に来て、勉強してから別のところに行けるようにすることが大事な役割。そのネットワーク化の性格が仙台市内の施設や地域をつなぐこともあり、地元の文化・東北の文化も大事にしないとイケない。</p>
30	<p>●過去を忘れずにおくことが未来に何をもたらすのか【30本江】</p> <p>・震災のメモリアルのことを考えるとき、どうしても大変なインパクトのある出来事であったと言いたくなる。我々は何かその刻印を受けていて、何かある種、悲壮な覚悟と責任感を持ってこの震災について語り継いでいかなければならないと。もちろんそうなのだが、一方で志賀さんが、必死で忘却をしなければならなかったとおっしゃったように、それだけでずっと続けられるのかということがある。</p> <p>・過去のことを捉まえて忘れずにおくことが、未来にどんな意味をもたらすのかということを考えなくてはイケない。</p>
31	<p>●特定の災害を覚えておく施設というよりも、災害とともに生きるには何が必要かを発信する【31-1本江】</p> <p>●災害の経験を仙台市のアイデンティティとして捉え、災害文化を創り広げていくためのセンター【31-2本江】</p> <p>・過去を忘れずにおくことが未来に何をもたらすかという視点は、仙台市の都市としてのアイデンティティに関わってくる。仙台市というのは被災をした場所であり、そのことを通じて災害について考え続ける、そういう文化を持った都市である。特定の震災を覚えておく施設というよりは、災害と共に生きるためには何が必要かということを発信する。仙台はその一定の資格があると思う。この拠点はそのような役割を果たすのではないか。</p> <p>・災害に対して不断に努力していくという、災害の文化を人類が持っていて、その成果として亡くなる人が減っているというマクロ視点の事実があり、それをちゃんと捉えて、未来に向かって続ける、というような災害文化のセンターを未来志向で持つということが必要。仙台がそういうまちであると掲げていくことができると、悲壮な責任感だけで続けることにはならない。仙台が例えば何か新しいビジネスを起こしていくときに、災害文化をきちんと持っているまちであるということアピールしていく、また、そういうことに広げていけるようなセンターになり得る。</p>
32	<p>●市民協働を進めてきた仙台市として市民がアクションを起こす場所を作る【32本江】</p> <p>・(多賀城の子育て支援施設での事例を紹介し)災害の経験を伝えるということは、一定のオーソライズされたものを受け取るのではなく、「私はこうだったのよ」と同じ境遇同士で伝え合うように、みんなが話すと、みんなが持っていることを直接伝え合うような状況さえつくれば、そういうことは起こると思った。</p> <p>・そのような市民が活動する場所、研究機関とか、市民がアクションを起こす場所、そういう場所を作り出すことができれば、それで結構回るものがあると思った。何かミュージアムみたいなものを作って提供するというモデルではなく、市民協働の仙台市として、そのようなモデルで考えられると良いなと思う。</p> <p>・未来志向のアイデンティティを考えるフレームを持ちつつ、市民の草の根のように、お互いに話し合うというやり方でやる。その両者は矛盾しないと思う。そういうイメージをもって作れると、何らかのミュージアムとモニュメントを作るといことは何か違うアクションの場所を作ることができると良いのではとっている。</p>
33	<p>●何かをつくって一丁あがりにはせず、持続的な活動の場に【33野家】</p> <p>・箱物を作って一丁上がりにはしたくない。何か博物館みたいのを作ってそこに展示が出来れば終わりだということにはせず、持続的な活動の場っていうものを作っていくことが私たちの使命。</p>
34	<p>●世代間倫理:世代を超えて災害の経験がバトンタッチされていくような場に【34野家】</p> <p>・世代間倫理。倫理というのは普通、同時代に生きている人間の様々な振る舞いのルールだが、こういう災害は、将来世代、未来世代にちゃんと体験・経験を伝えていくことが大事なのであって、倫理というものが世代を超えて次の世代へバトンタッチされるような場を作りたい。特に今回の震災は福島原発事故を誘発したが、放射能の半減期は何千年という単位であり、一世代で終わることではない。そういう意味で世代間をつなぎ、まだ顔が見えていない将来世代、50年後・100年後の世代をも射程に入れたようなメモリアル施設が必要。</p>
35	<p>●多様な物語が交錯する場、物語を紡ぎなおす場に【35野家】</p> <p>・先ほど志賀さんが「被災のレベルは人によって違って、1つの物語にまとめることができない。」とおっしゃった。もう1つの側面では、今まで自分が自明のものとして受け入れてきた物語がいわば更地になった時、そこから一歩踏み出すとすれば、新しい物語をもう一遍紡ぎ出すことが必要と名取市の精神科のお医者さんが言っていた。</p> <p>・物語を紡ぎ直すという作業、そしてそれは1つの物語にまとめる必要は全く無く、むしろ多様な物語が交錯する場というものをこのメモリアル施設が持つことができれば、被災した方にとっても、これから生まれてくる将来の世代にとっても重要なことかと思う。</p>